

悪性腫瘍の診断、治療、終末期医療を一貫して行う専門病院



手術支援ロボットを使った前立腺がん手術 2012年3月にダ・ヴィンチ Sを導入、2015年6月にダ・ヴィンチ Xiを導入して2台体制に。日本で初めての Xi での前立腺がん、腎部分切除術を行った。ダ・ヴィンチ操作は平川院長

北 海道のがん治療の一翼を担う

札幌市の中心部から東へ5キロの白石区に、社会医療法人恵佑会 札幌病院（細川正夫理事長、平川和志院長・229床／内、緩和ケア病床24）がある。昭和56年（1981）に開院、「悪性腫瘍の診断、治療、終末期医療を一貫して行う」ことを基本理念として、その目標に向かって発展してきた。

平成24年（2012）には、札幌病院から100mほど離れた場所に第2病院（高橋宏明院長・135床）が開院した。質の高いがん医療を目指す恵佑会における消化器内科部門の最前線として、がんの早期発見・早期治療に取り組むことを目的に、内視鏡検査、治療を中心に高度な内科医療の提供を担っている。札幌病院との緊密な連携体制によって、「自分の家族が安心してかかる病院」として、それぞれの機能を存分に発揮している。

恵佑会 札幌病院および第2病院の年間外来患者数は増え続け、18万人に迫る勢いだ。入院患者数も、第2病院が開院してから、昨年度は両病院合わせて13万人と増加している。全身麻酔による手術数は約3,300件。特に泌尿器科手術件数は増加傾向が著しく、ダ・ヴィンチによる前立腺全摘除術は2014年129件であった。また、理事長が先頭に立って手術を行っている食道がん手術は、2013年181件、2014年205件と13%も増加し、日本一の手術件数を続けている。また、消化器内科で行っている上部消化器内視鏡検査件数、大腸内視鏡検査件数なども増加している。だが、同院はすでに「北のがんセンター」と呼ばれるほどの手術、検査における実績評価が定まっており、がん診療に関してはこうした数値云々だけでは語るに及ばない質の高い診断、治療のステージを実現している。

34年間の沿革を見ると、その時々最先端医療機器の導入、施設・設備などのハード面での充実、

北海道・社会医療法人 恵佑会 札幌病院

〒003-0027 北海道札幌市白石区本通 14 丁目北 1 番 1 号

<http://www.keiyukaisapporo.or.jp/>



および機能や認定施設としての幅の広がりによるソフト面での充実ぶりがそのことを裏付けている。毎年のように何らかの施策が講じられ、その進化の様子はまるで脱皮するがごとくだ。

平成 5 年（1993）に恵佑会 東病院、さらに平成 12 年（2000）には認定を受けた緩和ケア病棟（24 床）を開設し、これを機に末期がん治療への取り組みを強化した。また、平成 21 年（2009）に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、その翌年には社会医療法人として認可を受けている。さらに日本医療機能評価機構認定病院、卒後歯科医師臨床研修病院などの認可の他、各種専門医、認定医などの研究・研修のための各種認定施設としても機能している。

開院当初、細川理事長の専門領域である消化器がんを中心にスタートしたが、その後、歯科・口腔外科、消化器内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、放射線科、乳腺外科を順次開設し（現在、20 の専門科を標榜）、診療内容の充実を図る一方、全ての科が悪性腫瘍を診療の中心に据えて早期発見に努め、全国トップレベルにある消化器外科を目標に各科が診療に当たっている。特に消化器がんについては、早い時期より内視鏡治療に取り組んでおり、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）はすでに 10 年以上の実績を誇る。

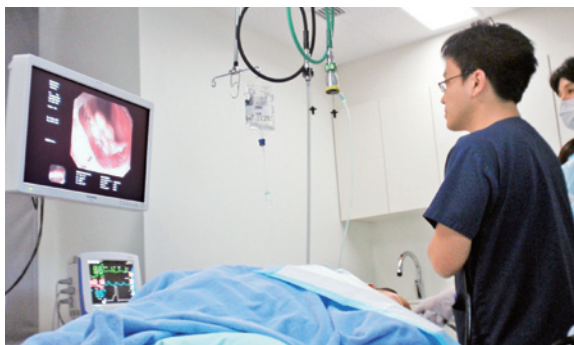
がん治療には手術、放射線、化学療法の 3 つの大きな治療法があるが、同院ではこれらの単独治療だけではなく複数の治療法を組み合わせることによって、患者にとって最適な治療を行っている。手術に当たっては複数の科の医師が協力して行う。一方、64 列 CT、MRI、PET-CT などの高性能機器を用いて専任医師が画像診断を行い、放射線治療では強度変調放射線治療（IMRT）や画像誘導放射線治療（IGRT）、さらに手術支援ロボット ダ・ヴィンチ（da Vinci）サージカルシステムなども導入し、安全性や確実性に配慮した治療を実践している。

そして今年 6 月、発売早々のダ・ヴィンチ Xi を新たに導入し（道内初）、ダ・ヴィンチを 2 台体制として 7 月上旬より手術を開始した。ダ・ヴィンチ Xi による手術は全国初となる。これにより、手術を希望・必要とする患者に、ほとんど待機する期間なく入院・手術ができる状況が整った。同院が目指す、低侵襲外科分野において牽引的な役割を果たすことで患者や社会に貢献するという目標が、またひとつ具現化されつつあるといえる。なお今後は、ダ・ヴィンチ S は主として前立腺全摘除術に、ダ・ヴィンチ Xi は前立腺全摘除術のほか、腎部分切除術および近い将来に開始予定の膀胱全摘除術、また消化器外科領域の胃がん、S 状結腸がん、直腸がん



第 2 病院ロビーの芸術的なソファやオブジェ

院内のいたる所にある良質な芸術品は、患者が少しでも居心地よくなるようにとの思いが感じられる。



食道がんの内視鏡的治療（ESD）

第 2 病院には内視鏡検査室が 5 室、ESD のベテラン医師も 4 名、術数は全国トップクラスだ。写真は高橋院長

の根治手術に使用する予定だ。

さて、こうしたがん診断、治療に関して最先端高度医療を標榜する同院は、基本的には院内完結型医療を目指している。だが、基本方針に「地域医療、特にがん医療の面でネットワークを充実させ、道内全域の患者さんへ情報及び医療を提供します」と

謳っているように、地域がん診療連携拠点病院としての機能も遺憾なく発揮している。

「がん相談室」「医療相談室」は同院の患者だけではなく、地域住民にも利用できる仕組みになっており、「開放型センター」として機能している。「がん相談室」は、患者やその家族から医療、療養、生活



内視鏡による S 状結腸手術



放射線科 IMRT の前で明神医師を囲んで集合



歯科口腔外科
9つの治療ブースと3つの手術ブースを備え、北海道の口腔がん治療を支えている。



外来化学療法室
18床あり、すべてベッドタイプ。月に約300件処置



新棟ロビーの見事な陶板絵画と玄関のオブジェ（右）



面で生じる様々な疑問、不安、悩みなどについて、少しでも解消できるよう専任スタッフが相談に乗り、適切な情報提供に努めている。「医療相談室」は、がん患者になった時、がん患者を抱える家族になった時の現実的な問題に関する心配事に、医療ソーシャルワーカーが専門的な立場から相談に応じる。ここでの相談は、「医療費や生活費などの経済的な問題」「退院後の療養生活」「家庭や仕事のこと」「健康保険、年金などの社会保障制度の利用について」「介護保険や身体障害者手帳などの社会福祉制度利用について」など広い内容に及んでいる。

文 化的香りを醸し出す院内オブジェ

こうした高度ながん診断・治療、医療サービスの提供を実現する同院だが、建物は、本棟が地上7階、地下1階で、新棟が地上2階、地下2階の構造となっている。本棟1階には、事務室、外来各科、放射線レントゲン室、内視鏡検査室、窓口機能である会計、薬局などのほか、レストラン、売店、美容室などのサービス部門がある。2階より上階には手術室、回復室、病棟、そして最上階の会議室と続く。地階は栄養科と放射線照射室だ。

新棟の1階は、外科、消化器外科をはじめとする外来各科があるが、注目は歯科口腔外科で、全道の口腔がん患者の約40%が、ここで治療を受けている。9つの治療ブースと3つの手術ブースを設けており、医療用顕微鏡を3台使用し、外来では静脈内鎮静法を主体とした年間1,400例程度（入院全身麻酔では700例以上）の手術を行っている。2階には、透析室、患者用図書コーナー、病理診断科がある。

本棟1階からそのまま続く新棟の外科・口腔外科外来の待合ホールはゆとりあるスペースになっているが、「大塚国際美術館」に展示されている陶板絵画と同様に作られた巨大な絵画（「朝がくる」〈藤原英幸氏作〉）が壁面を飾っている。ホール脇にはグ



充実した院内美容室「ボン・デクリック」同院の緩和ケアにおける配慮が伺える。



院内保育所
保育士6名。
最大30名まで
受け入れ可能

ランドピアノが置かれ、朝と外来終了後には自動演奏され、クラシックの名曲が流れる。

このホールに限らず、院内随所に置かれたオブジェや絵画の数々が、同院に文化的な香りを醸し出す。この空気感は道路を挟んだ第2病院についても同様だ。こちらの玄関や待合ロビーに至ってはもはや落ち着いた美術館の趣だ。

「当院は悪性腫瘍の治療を診療の柱にしています。多くの分野で平均的な診療を行うのではなく、限られた範囲ではありますが、得意な分野で突き抜けた実績をあげることが目標にしており、そのためにこれからも設備の充実、人材の確保、職員が働きやすい環境づくり、地域住民への啓発活動などの取り組みを通じて、患者さん、社会に貢献できる病院作りに努めていきたいと思っています」と平川院長は語るが、院長はじめ同院職員の仕事への取り組みの拠りどころは、まさに細川正夫理事長が開院以来貫いている「細川イズム」に他ならないだろう。



平川和志院長